

令和 7 年度 東京都福祉人材確保対策推進協議会 第 1 回専門部会（普及啓発部会）  
議事概要

1 日時

令和 7 年 7 月 1 1 日（金） 午後 2 時から午後 4 時まで

2 場所

ビジョンセンター西新宿 7 0 2

3 主な意見（議題：福祉人材集中 P R 月間の取組について）

- ・昨年度のなにゆえ私が福祉職キャンペーンでは、予想よりも多い投稿があり、多様な動機が紹介された。X でトレンド入りを果たすなど一定の成果があり、今年度も魅力発信を継続していただきたい。
- ・介護職等の働き手だけでなく、福祉サービス利用者や家族など当事者側からの期待や意見を SNS で発信し、双方の関係性を可視化する取組があると面白い。
- ・児童分野は幅広く、保育士、児童養護施設、里親などで仕事の内容が違ってくる。保育士は特に、福祉職としての認識が薄いという点は投稿数が伸びない一因と思われる。一方で、親御さんのケア、ヤングケアラーの問題が社会的にも話題になってきており、このような問題と保育士の仕事を完全に切り分けることは難しく、保育士にも福祉の要素があること、他の福祉分野との連携強化をアピールしていく必要があると思う。
- ・児童分野の中では障害分野とも重なる放課後デイサービス等、福祉色の強い分野へのキャンペーン周知が効果的と考えられる。
- ・自立支援施設などは勤務時間が不規則なため、ラジオなど非 SNS メディアとの連携も有効ではないか。
- ・福祉分野の大学や保育分野を学ぶ大学へ講義する際に感じるのは、児童養護自体の認知度が低いという課題。また、里親も社会的養護の一端を担っている分野であるため、一体となって周知することについて、今後考えてもいいのではないか。
- ・ビジネスケアラーを巻き込んだ周知、D X 補助金をもらっている介護事業所には情報発信するよう依頼するなどが、キャンペーンを盛り上げる方法として考えられる。
- ・SNS に慣れていない層への情報伝達として、施設単位での投稿やバトンリレー形式での継続的な投稿が効果的ではないか。
- ・SNS 投稿については、インスタグラムなどアカウントを持っている人は意外と多く、ただ、顔や名前を載せるのは嫌だという方がいる。匿名性が担保される方法とすれば、投稿数が増える可能性がある。
- ・実際に養成施設などで学んでいる学生の話は重要だと思う。今年は養成施設にもご協力いただき、なぜ私が福祉を学ぶのかとか、教員側はなぜ福祉に携わる学生を育てるのかという生の声を P R するといいいのではないか。
- ・多様な福祉職のキャリアパスを視覚的に W E B 上に分かりやすく示すため、円状に広がる図を使うのは良いアイデアだと思う。

- キャリアの見せ方について、児童福祉分野は、それぞれの専門分野でずっと働きたいなど、働き方が多様で、施設長など管理職への一本道ではない。多様なキャリアの選択肢を示す工夫ができると良い。
- 高齢介護は資格取得から専門性を高めるプロフェッショナルの道、マネジメントへの道があるほか、高齢も障害も児童も区分なく、この街をどうにかしていきたいという、街づくり的要素が動機になって福祉職に就いている方もいる。資格取得のキャリアアップだけでなく、個人の働き方の志向や生活状況に応じたキャリアの見せ方ができるのではないか。
- 福祉職の夜勤や呼び出しなどの勤務形態の課題が指摘される一方、事業所の多様性により働き方の選択肢は豊富で、この点はこの業界のとても良い点だと思う。
- 公務員としての福祉職も人手不足が深刻であり、学生や求職者に公務員福祉職の存在を広く周知し、福祉職全体としての参加を促すことも有効と思われる。